

【めむろ未来ミーティング】

令和5年10月24日(火)

18:30～21:00

■参加者 町内在住者 40人
町外在住者 5人
報道機関 3人
計 48人

■芽室町 町長、副町長
政策推進課長、魅力創造課参事
政策推進課参事

- 1 町長挨拶
- 2 経過説明
- 3 質疑応答

テーマ

「新嵐山スカイパークに関する経過説明」

◇町長挨拶要旨

突然の新嵐山スカイパークの休業に際し、多くの町民の皆様、利用者の皆様、そして関係者の皆様にご心配、ご迷惑をおかけしたことについて町としてお詫び申し上げます。新嵐山スカイパークの状況、経過、町としての考え方、今後については広報誌に掲載したところだが、非常大きな問題であり関心の高い本件については、それだけで説明責任を果たしたとは言えないため、町民、利用者、関係者の皆様へ直接説明する機会を設けたいとの思いから今日の開催に至った。説明後、質疑応答の時間もあるので、現段階ではお答えできない部分もあるかもしれないが、ご意見はしっかり承りたいと考えているので、忌憚なくご発言いただきたい。

◇経過説明

資料に基づき町長から説明

◇質疑応答

●参加者

まずはこのような直接ご説明をしていただく機会を設けてくださりありがたい。そして町長をはじめ、職員の皆さんは私どものためにご尽力いただいたことに元町民として感謝したい。

私は元々芽室町で生活をしていて現在は帯広市民である。町民憩いの場である新嵐山スカイパークの再生については町民からの意見を幅広く聞いていくという姿勢だが、新嵐山に対しての思い出や、価値を重く思っている人というのは、現時点での町民に限らず私のような元町民や、これから芽室町に住みたいと思っている方々、一度新嵐山をご利用いただいた方々など、町外にもいると思う。そういった声を拾うためにも、門戸を広くして意見を求め、ノウハウを吸収するという手段もあるのではないかと思う。町外に住んでいるからこそ町内の人とは新嵐山に対する見え方が違うことが結構あるのではないかという気がしている。新聞報道を見ているとやはり広いところから関心が集まっているので、もちろん町民ファーストとしてその姿勢は大事かと思うが、広く新嵐山に関わる、ひいては芽室町に愛情や誇りといった気持ちを持っている人たちも参加させていただくような機会を設けてはどうか。

●町長

芽室町には新嵐山スカイパーク設置条例というのがあり、その中に「町民の憩いの場」と「観光の振興」と二つの大きな目的が謳われている。これを私としては両方実現するようにやっていかなくてはならないと思っている。町民の憩いの場といういわゆる公共性の部分は必要だと思うし、観光の振興の部分では今ご提言あったとおり町民だけの意見ではなく広く聞いていく必要はあるかと思う。十勝の新嵐山スカイパークという感覚もあって然るべきと思っており、今のところは町民対象に意見交換会の実施を考えているが、色々な手法を通じてご意見をいただくことを考えてみたい。デジタルを活用し、メールやSNS、ラインなどで意見を聞いたりすることもできるが、場合によっては町外の方々が意見を発する場を検討したい。

●参加者

新嵐山のそばに住んでおり、夜にスキー場に行くとナイターをやっているが、いつも一人いるかいないか。無くならないのが不思議なくらいだった。過去のすまいるにメモロスキー場利用者数推移が書いてあったが、20年ぐらい前と比べると今は1/4ぐらいで、利用する人は減っていた。自然と景観の良い財産なので、利用者は町民に割り切って、最低限の維持管理をして、スキー場と夏シーズンはバーベキューなどちょっとした利用ができる程度の施設、サービスなどあまり費用をかけないようにして最低限でやっていくしかない気がする。リフトを一度止めると再び動かせるのかわからない。ナイターも金曜と土曜の夜だけでいい。リフトも2本動かすと上下に人を配置することになり、最低4人も必要になる。その辺りを町はどう考えていたのか。甘かったと思う。食堂も昔みたいにカレーライスと丼物くらいにして、最低限でやったときにどのくらいの運営費がかかるのか試算してみてもいいと思う。

あと、あの場所は農業地帯なので、観光で遊ぶだけでなく、何か活動に参加するようなプログラムを目玉にしてはどうか。都会から小学生を合宿に呼んで、川遊びや農作業体験などをするプログラム。都会の親は子どもにそういうことを体験させたいと思う。

●町長

全体的な利用者が減ってきていたということだが、特にこの規模のスキー場でスキー場だけでペイするという事は非常に難しいと全国的にも言われている。色々な工夫、例えば通年を通じた収入を確保できるような事業を行うなどしていかないと経営としては成り立っていかないと一般論として言われている。私としては、この新嵐山の改革をスタートする時に、スキー場の収入の増減、雪が降ったらある程度儲かり、降らなかつたら儲からないという状況の経営状態はまずいと思ったので、通年を通して収入を確保できる状況にしていきたいという考えがスタートとしてあった。せっかくの資源もあるので、これを夏も含めて活かしていきたいという考え方でやってきたのが当初の意図。今言われた色々な機能については、今一度考えなければならぬと思っている。スキー場やレストラン、宿泊機能、キャンプ場など色々

な機能がある。その機能を今後どうしていくか、存続していくものと存続していかないものもあるかもしれない。その辺りを考えていきたいと思う。ただ、皆様方全員が納得するような方向や機能を残すということにはならないと思う。色々なご意見を聞きながら、最終的には町としてこういう機能を持たせて、こういう新嵐山にしていきたいというところを打ち出した上で、また色々なご意見を伺うという形になると思う。私は基本としては廃止ではなく存続していきたい気持ちがベースにあるので、その中で皆さんのご意見を聞いていきたいと考えている。

自然を生かした活動については私も本当に同感であり、改革の当初から言っていることだが、人工物をどんどん作って魅力発信ということではなく、できるだけ自然を生かした形で魅力を作っていきたいという考え方であり、今後も同じ考え方で進めていきたいと思っている。

●参加者

議会の説明会にも出席させていただき、損益計算書をじっくり見てみると、令和2年度と3年度に、コロナの影響だと思うが、宿泊部門の収入が1/3ぐらい落ち込んだ時に、人件費が増えている。お客様が減って収入も減っているのに人件費が増えているという状態が何年か続いていて、そこで-8,000万円や-1億円という損失が出ているところが今回の原因ではないかと思う。毎月の売上計画や来客数計画などがあって、実際の労働時間などを日々追っていけばこのようなことは起きないと思うが、なぜ何年も人件費が増え、お客様が減っているということに関して町は言えなかったのか。

それと、私もサービス業を何年かやっていて、その当時の会社が500億円ぐらいの負債を抱えた。上場廃止になりMBOでアメリカのファンドに買われたが、3年ほど前に再上場できた。その時にやったことというのは、ソフト面の強化。スキー場など色々な武器が芽室町にはあるが、ハード面ではなくそのお客様に対するサービスなどのソフト面を強化し、リピーターを増やすことで経営が安定していくと思う。新嵐山はサービス向上の部分に関しての関心が薄いと思う。新嵐山は

近いので足を運んでいるが、実際に料理提供が一時以上かかっていたり、お風呂が壊れて入浴に行ったらスピーカーを持ち込んだ若者がラップをかけて大きな音をかけていたり、もう次行けないというようなケースが多々あった。そういう部分でリピーターが増えず、どんどんお客様が減っていくという現象があったと思う。再建するに当たっては、是非サービス面、従業員教育面を強化していただければ、芽室町は非常に魅力的な場所でもあるので再建できると思っている。

●町長

町の関わり方として、私の立場としては年に1回株主総会に出席している。ご指摘のとおり、令和3年度にかなりの赤字が出て、その段階で色々なことを考えるべきでないか、例えば今回の清算のようなことも考えてもいいのではないかという意見もあると思う。しかし、私としては新嵐山活用計画を作り、その中で会社は色々と企画を考えて頑張っていたという部分があった。新嵐山の指定管理の仕組みは、一定の利用料収入を想定した中で、全体の経費からその分を差し引いた分を指定管理料として支払っている。その仕組みの中で、見込んでいた利用料収入が全く入ってこないような状況になったので、その分を支援という形ではなく、設計変更という形で指定管理料に上乘せしていた。資料でいうと、令和2年度委託料が7300万となっているが、基本的には令和3年度から5年度の指定管理料の年間金額は5300万だが、利用料収入が見込めなかったことで、その差額である2,000万円を支払っているということ。その差額が毎年違うため、毎年違う金額になっている。これが設計変更の考え方。支援金というのは別で、経営を安定させるために入れるお金である。令和3年度の決算は、累積赤字も含めて多額の赤字を計上した。この時点で確かに大きい数字ではあるが、令和4年度にかけて、これまでの反省を踏まえた経営改善によってどのくらいの集客に結びつくか、収入としてどのくらいアップするかという期待もあり、赤字解消に向かう方向であれば少し見通しがあるのではないかと考えた。しかし、現実には令和4年度の赤字額もほとんど変わらなかった。これは経営として非常に反省すべきと思っている。

その令和4年度の決算が出て、さらに資金繰りとして非常に厳しい、資金ショートが起きることになったため、これではもう第3セクターのままでは無理だと株主として決断した。もっと早くやるべきとか、人件費もどうだったのかというご批判はあるかと思う。それは本当に真摯に受け止めたい。

サービス向上、ホスピタリティ、これは私の耳にも色々な方面から入ってきている。一方ですごく良くしてくれたという声もあるが、サービスを提供する会社は一つでもそういう苦情があると全部が駄目になってしまうので、やはりサービス向上、ホスピタリティの面でしっかりやるべきところがあったのではないかと反省している。これからの在り方の中で、新たな担い手にお任せするタイミングも出てくると思うが、その時に町としてはしっかりやってもらうよう申し添え、何か苦情があれば改善していくということをやりたいと思っている。

●参加者

令和7年度に再開予定という話をしているが、それまでの草刈りなどの維持管理はどうしていくのか。

もう一つは意見だが、今後ゼロベースから色々考えていくと思うが、日高山脈が国立公園化される中で、国立公園化に向けて、芽室町としてやっていくことも考えていけたらいいと思う。国立公園に生息する生物や、植物の分布などの資料を展示することも一つのアイデアだと思う。それと南富良野に行くモンベルのショップがある。人口自体は多くないが道の駅にモンベルの店舗があり賑わっている。国内外の大手のアウトドアメーカーから意見をいただいたりして、新嵐山を活用してもらうことも考えたり提案したりと営業してみてもいいのではないかと思う。

●町長

施設の維持管理については、基本的にこのまま山をなくすという考えがないので、最低限の維持管理はしっかりやらなくてはいけない。今まで定期的、定期的に利用いただいていた団体があるので、そういった方々とお話をして、破産管財人が指定している所は立ち入り禁止になっているが、その間どこまで立ち入ったり使ったりすることができるのかという

ことを明確にしながらやれることをやりたい。今年度のスキー場についても、今一生懸命やっているが、非常に厳しい状態である。少なくとも1月末ぐらいまで駐車場含めて立ち入りができないと思うので、スキー場を少しでもやるということになってもおそらく2月下旬から3月しかできないというふうになっている。その手続きなどのハードルがたくさんあり、それをクリアできるように今頑張っている。ただ、今年度については期待できないとお答えした方がいいと思っている。ただ、令和6年度のスキー場については、一定程度時間もあるので、直営も含めて再開を考えたいと思っている。時間があれば人材確保も可能になるので、コースを小さくする必要も出てくるかもしれないが、次の担い手につなぐためにもスキー場の再開は考えていきたい。また、他の機能もできるものがあれば、やはり継続していきたいと思っている。

日高山脈の話はありがたい。私は十勝・日高山脈観光連携協議会の会長もやらせていただいている。せっかくの国立公園化に向けて、街づくり含めて何かやるべきではないかという思いからやらせていただいた。資料展示など、そういったものもあると思う。可能かどうか分からないが、国立公園化に向けてのアクティビティセンターの設置なども入り口としてあると思っている。モンベルについては連携協定も町結ばせていただいているので、街づくりとしてどう関与していただくかなど、アドバイスをいただくなどをしていきたいと思っている。

●参加者

私はまだ新嵐山にリフトのない時代からロッジというところでラーメンやカレーなどの一般大衆の食事を提供してきた。50年間やってきた。当時の支配人に高い値段は駄目、町民のための食事を提供しようと言われてきた。その後、ある時新嵐山株式会社から11月いっぱい機材を撤収しろ、しない場合はこちらで厨房施設全部撤去すると最後通告を突きつけられた。他の民間事業者3社も新嵐山改革と称して撤退せざるを得ないよう徹底的にやられた。新嵐山株式会社は赤字と称して、コロナと称して私たちの売り上げを手に入れた

形になる。そんなことは町がやっていいことなのか。

それから私は町長に12月1日一斉にスキー場をグランドオープンするので協力してくれと言われた。その中でスキー場がオープンしたのは25日頃。25日頃までに雪が降らずにスキー場が動かず、売上ゼロの日が3回あった。会社は売り上げもないのに職人を増やし、月次の人件費が800万円以上かかっていると聞く。1ヶ月のうち一日売り上げのない日があったことを町長は把握しているのか。正社員が16人いれば人件費は一日30万円ほどかかるそうだ。こんなことをしている会社は民間であるわけない。理想論ばかりをぶち上げている。私が撤退した後に、調理場の職人6人ほど男の人を増やした。売り上げがある月、スキー場がある時は何とかいいかもしれないが、スキーシーズンが終わったら新嵐山は毎年閑散とする。その中で社員の給料を払って、それも指定管理料や設計変更など色々な予算で繕っていたにしろ、膨大な人件費に膨らんでいる。これから新しいスキー場を目指していくのであれば、その点をトップがしっかり管理しないとけないと思う。株式会社の社長がいるから任せっきりとかではなく、きちんと管理することができるノウハウや能力をつけていただきたい。

もう一点、メムロスキー場のそり滑りのところに簡易的でもいいからリフト的なものをつけて子ども達が遊べるような施設にすべきと提案してきたが、私の声は伝わらなかった。新嵐山はもう一つ山が増えればもっとも色々な展開ができる可能性がある。だが、山が低いため、昔は2,30分待って滑って降りてくるのが3分、そのぐらいの小さな山なので、ゲレンデの下には子どもたちが危険なく遊べるそり滑りの場所を設けるといいと思っている。とにかく町民目線でやらなくてはいけない。補助金や、議会のお金を当てにしないで自立した経営感覚を持たないとまた同じことになるのではないかと心配をしている。

そういった点で町長の腹、どのように人件費を見届けて管理していたのか伺いたい。

●町長

いずれにしても今回のことは皆様に大変ご心配もおかけしているので、何らかの責任は取らなきゃいけないと思っている。今詳細をお話できる話ではな

いが、具体的に弁護士とも話をし、どれぐらいの処分をすべきかというところはこれから考えたい。今は清算、整理の仕事があるので、これが落ち着いたら皆様方の耳にも入ると思う。

今後の在り方について、やり方として直営だと町長や担当含めて状況を把握しながら運営していくということだと思う。ただ、指定管理になると、指定管理でお願いした会社の雇用などのすべてを町や町長が管理するということにはならない。経営状況が悪くなれば場合によっては違う事業者をお願いすることにはなるかと思う。様々な業務で維持管理を委託している会社の経営状況を私が全部把握しているわけではないし、一般論として指定管理で何人雇用して業務を行っているかというところはわからない。町としてこういう業務をお願いするので、会社としてやってくださいとお願いする関係。今後民間事業者任せの場合、仮に指定管理という仕組みでやるとすれば、そのようなやり方、指示の仕方になるので、そこはご理解いただきたい。

●参加者

町長は私をスキー場から追い出すことはしないと町長室で断言した。指定管理で町と会社は別だと体のいい言い訳に聞こえる。男と男の約束、トップ同士、会社の代表と芽室町長で約束した。それを指定管理の株式会社の社長は無視して追い出した。こんなことありえない。委託している指定管理会社の決算状況とかそんな話を聞いているのではない。もっと切実な内容の話をしている。それらを質問したら色々な話を繕って答弁するのではなくきちんとこの話をしてほしい。間違いは間違いである。私はコロナで一番大事な時にスキー場を追い出された。倒産するかしないか、今回と同じ。家族がみんな路頭に迷う。あなた達は私財を投げ打ってどうするとかはないだろうが、私たち民間は全部裸になる。それをやられた方の気持ちを町長はどう思っているのか。これを聞きたい。

●町長

私も記憶しているが、おそらく4回、5回とお話をさせていただいた。ラーメンの話などもしたが、約束してできなかったことに関しては、しっかり謝らせていただいたと思っている。追い出すなどと表現され

ているが、その後の交渉の中で今の新嵐山株式会社の方針にどこまで寄っていただけるかという話を色々させていただいた。会社の皆さんにも努力して色々提案していただいた経過があったと思っている。その中で最終的には会社側の方針と折り合いが合わなく、ビジネスとして契約が成り立たなかったため撤退していただいたと思っている。3社あったが、三者三様、色々な思いや経過があるので全てここで申し上げるつもりはないが、私としてはそういう理解。排除や追い出すという言葉が使われているが、私はそうは思っていない。

●参加者

今回残念ながら新嵐山は閉鎖ということになったが、今後町民や議会の意見を聞いて令和6年度か7年度の再開を目指していきたいという考えだと思う。これが再開の目処が立たず、再開ができなかった場合、今の施設をまだ長い目で見て、なんとか再開を目指して最低の維持管理で施設をもたすのか、それとも施設を壊して更地にして何らかの開発などの計画を町として今後見ていくのか、その辺りの意見を聞きたい。

逆に目処がついて再開できるとなった場合、施設はかなり老朽化していて今後利用するとしてもかなり厳しいものがあると思う。町としてどこかの第3セクターにまたお願いするという形にしたとしても、この施設のまま稼がせることにはならないのではないのか。その場合、施設にどれだけの金をかけて改修するのか、見積もりはあるのか。

3点目は、今まで町外にしても町内にも利用はあったと思う。コロナは別にして、それ以外の部分で需要が減ってきたという部分について分析はされたことはあるのか。リサーチしていたのかわからないが、今の会社の時にはレストランにアンケート用紙など置いてあった。だからその辺のリサーチなり分析はどこでどういう形でしていたのか。

●町長

マスコミ等にも流れているが、令和7年の4月になんとか再開する方向を目指して一生懸命やりたいと考えている。7月に清算を決めた時から色々並行して次の担い手の模索や交渉を進めている。しっかり

整って言えるような状況になった時に皆様方にお話していくことになる。その前に実際どのようなことが新嵐山に求められているのか、もっと言うと山をどうするのか、中には無くせという声もないことはない、その辺を総合的に判断して決めて、そしてこういうやり方で進めたいと提案していく流れになると思っている。

施設もあのまま居抜きで新しい事業者が入ってもなかなか営業はできないと思うので投資が絶対必要になってくると思っている。それが改修なのか改築なのかその辺も分からないが、いずれにしてもそのままの状態ではできないと思うので、その間は最低の維持管理をしっかりとやらせていただき、事業者の考え方なども踏まえて移行していくということになると思う。今の段階ではどんな方法をやるかも分かっていないので、見積もりなどはなく、まずは方向性をしっかりと決めていくことが今の私の仕事と捉えている。

●魅力創造課参事

利用者の分析は利用者アンケートを取っていて、令和4年度は全部で4517件の回答をいただいている。7段階評価で評価いただき、食事の味で言えば濃い薄いなどに捉われることなく、年齢ごとに傾向を捉えながらアンケート結果に基づいて、どのようにサービスの提供をしていくか判断するためにアンケート調査を行っている。先ほど他の方からご意見いただいた中で、農業体験のお話もあった。運営会社で長靴クラブというサービスで、夏冬合わせて体験メニューを提供している。例えばキャンプに来られたファミリーを対象に火起こし、薪割り、虫取りや山登り、今シーズンは近くの農家さんでスイートコーンのもぎ取り体験など、そういったこともやりながら、ご意見をいただいた中で、周辺の農家さんとも協力させてもらいながら、ご意見を反映したプログラムを設けている。

●参加者

新しい指定管理事業者が決まった場合、芽室町としては公共性と企業性をバランスよくやっていきたいということだが、企業性に全振りされた場合にそのコン

ロールができるのか。

また、もし可能であればだが、全世帯に新嵐山に関して、山をどうするとか、町民の財産をこれからどうするというような質問ができないか。単純に町民の意見として知りたいと思った。

●町長

公共性と企業性、あるいは経済性の話だが、私が考えているのは、今まで第3セクターで公共性も企業性も両方を求めようとする、非常に厳しく、どっちつかずだったと思っている。指定管理も確実に決めたいわけではないが、いずれにしても経営を民間に委ねるといことになると民間の考え方としては企業性、経済性を優先していくことになると思うので、それはそれで追求してもらおうということだと思う。そこで私も町長として町民の癒しなどの部分で何かをしなきゃいけないので、公共性の部分は町が予算も含めてこのような事業を町民向けにやってほしいとか、町民還元を町として行うのでこういう事業をやってほしいなど、割引などもあるかもしれないが、そういうことを私としてはやりたいので、そういう意味では役割をしっかりと分担してやっていくのが形としていいと感じている。どうしても第3セクターだと会社の社長が私や副町長で、公共性もやらなくてはいけない、でもお金もしっかり稼がなくてはならないとなると、どっちつかずで非常にやりづらい部分もあったと思うので、そういう役割分担をした中で進めていくことがいいと思っている。また、指定管理が本当に良いのかという考え方もある。今のところは町の財産として山ももちろん持ち続けていくと議会にも申し上げているが、例えば貸付をして民間でやってもらうなどの発想もあるとは思う。売却や譲渡はないと思っている。基本的にはコントロールできるかというよりも、役割分担をしてお互いに話していき、最終的な主体は町だというような形で運営していくことだと思っている。

全世帯の意見募集は、一つのご意見としてはありがたいが、新嵐山を一度も利用したことのない方などの意見で、お金かけなくてもいい、使わなくていいという意見が非常に多かった時が怖いと思っている。一方で残したいという人だけの意見を集めれば、

それは残すのが当然という形になるが、その辺りの兼ね合いが難しいと思っている。議会も含めて存続をベースにした上で、存続するにはどうしたらいいのかというご意見を色々な方からいただくという手法が妥当だと考えている。ご意見としては、意見を幅広く町外の方も含めていただくということは大事だと思っているので、それは頭に入れてやっていきたい。

●参加者

個人的に新嵐山は大好きで、とても素敵な景色が見られるし、憩いの場であると思っている。先日報道にもあったが、十勝トラック協会に植樹していただくなど、魅力に思っている団体や個人もたくさんいると思っている。具体的にはここで言えないができる限りのことはするので、そういった期待のある新嵐山を今後魅力あふれる地域に存続して行ってほしい。

●参加者

私たちがみんな不安で、この話をしたいということで10月12日に集まって話した。その中から色々意見が出たので、それは役場にお届けしている。やっぱりなかなか難しい問題で、どのように何を整理していったらいいのかかわからないが、まず今までの運営体制がこの次どのようになっていくのかと思った時に、今までの経過からしっかり学んで、次につなげていけたらいいと思っている。私自身経営に関して素人であり、町民としていくらだったら払えるのかとか、予算規模の捉え方も難しかった。議会で5200万円提案となった時にも、それが必要なお金なのか、あるいは私たちが本当に負担してそれで次を目指していい金額なのか本当に難しいなと思った。

一つは、その目指す姿の中に、町民の人たちの色々な思いというのがどのように反映されていたのかというのが疑問としてある。町民といっても、昔から住んでいる人や、思い出があってその思い出とともにこうあったらいいと考える人もいるし、移住して間もない人はこんな風に新しく綺麗に変わった新嵐山がすごく気に入っているという声もある。この数年の間、住民の声がどのように受け止められてどのように検討されて、

反映できたこと、できなかったこと、そのプロセスを知りたい。

あと、役場でも新嵐山を担当していた職員の方は少なかったと思う。すごく複雑なことをその少人数でやって、大変だなと思う。このコロナ禍で大変だったからこそ見えた新嵐山の美点と、やっぱりここは本当に変えていかなくてはいけない点とその難しさ、これを担当者がその現場で感じたものをお聞きしたい。

●町長

新嵐山改革と言われる時期から色々やってきて、反省すべき点ももちろん多々ある。だが、初めて新嵐山に来て楽しかったなど、そういう声も聞いていて、プラスの面もあったと思う。ただ、やはり経営という部分でこういう状況になってしまうと何も言えない。その責任は先ほどから申し上げているとおり私以下あると思っているので、町民の声をどれだけ改善してきたかということに関しては反省点でもあると思っている。色々意見をいただいて改善した部分もあるが、全部に対してしっかりできなかった部分も中にはあるのかなと思っている。そこはトータルの言うところのホスピタリティ、要するに接客や、地元事業者との人間関係など、そういったものも要因としてはあると思う。あるいはスタートした時の物の言い方や態度など、そういう点も大きな反省点だと思っている。今後に向けては、自分ごと化会議でも言われたように、町民が愛せる、誇りに思っているところを第一に考えていかなくてはいけない。しかし、そのことと町民を特別扱するということとは違うと思っている。町民も含めた利用者の皆さんに満足していただける形がいい。町長としては、公共性の部分で、町民に対する事業や還元のようなものを考えていく。接客等についても、聞く耳を持って対応していくということを新たな事業者にもお願いしていきたい。

●魅力創造課参事

どういう思いで改革を進めてきたかということで言えば、ベースにあるのは私も芽室町に生まれ育った人間で、子どもの頃によく新嵐山に自転車を漕いで虫取りに行ったり、当時あった面白自転車に乗ったり、そういうもので楽しんでいました。私が子どもの頃

の新嵐山は、子どもたちの笑い声が響き渡る素敵な場所だった。それが、自分が大人になった時に、当時流行ったパークゴルフに来られる方しかないような本当に閑散とした場所になってしまった。この状況を何とか変えたいというところで手島町長が掲げた、新嵐山改革、その中でやっぱりあの場所を住んでいる人も自慢に思ってもらいたい、誇ってもらいたいと思った。当然町民利用だけでは経営が成り立たない部分はある、新嵐山の置かれている環境は、スキー場にしてもキャンプ場にしても、役割として十勝管内の中でも位置づけ的にはすごく大きい部分があると思う。そういったことも踏まえた上で、私としてはその町外の人からも、誰からも愛される新嵐山になってほしいという思いで改革に取り組んできたところである。

その成果として、先日行われた民間主体の事業ではあるが、スロウ村というイベントで、二日間で1万1千人の方に集まっていたく規模までなった。その一年前は6千人だったので、倍以上の方に来ていただけた。それはこれまでの改革を進める中で、外から来られる方も、新しくなって子どもと一緒にファミリーで来られる方も、改めて魅力を感じてくれたのかなと思っているところもある。それが経営に繋がらなきゃいけない部分はあるが、どうしてもコロナ禍があり、利用料を上げるというのが難しいタイミングだった。付加価値が高くなると、料金転嫁しても経営が苦しいから料金を上げたと言われてしまう。そういったことも踏まえ、付加価値が上がった段階で料金を上げ、利用されるお客様からも料金が上がっても使っていきたいと思われるようになってきていると感じていた。私としてはそういう思いでこの改革に取り組んできた。

●参加者

負債1億200万円とか、5200万円の補正予算案が通らなかつたから一旦閉めますということだが、これは全部税金ではないか。負債は税金ではないが、町から1年分の委託料を払ってもらってなおかつ5200万円足りない、それがないと存続できないという形で今回閉鎖になったと思うが、これは税金である。指定管

理料にしろ、補正予算にしろ、税金だと思う。今回このような失敗をしておいて、なぜ町長は令和7年度に再開するという計画を持っているのか、そこが今話を聞いていて疑問である。今ある新嵐山を全部清算して、問題がなくなってから新嵐山を民間に売払って民間でやるというなら私たちの税金が使われなくてそれでいいと思う。しかし、私たちの税金を使ってまでなぜ今このような経営難に陥って一旦閉めている施設の存続をするという考えなのか。ただ魅力があるから、芽室の魅力がなくなるからと言っていたが、もう既になくなっているから誰も利用してないと思う。だから経営難に陥ったと思う。それを私たちの考えが足りなかったとか魅力ある町づくりができなかったとか、ずっとそういうことを言っていたら、町長は2期目だが全然改善されていなかったのではないかと思う。民間であれば会社が破産したら経営責任者はみんな退任するが、今回副町長はそのまま副町長としてそのまま職に就いている。町長も副町長を社長に任命したのに、町長の役職に就いている。その辺、管理者としての責任はどう考えているのか。町民に対して、すいません、このような事態にしまいました、申し訳ありません。それだけで終わらせるつもりか。

●町長

指定管理料のお話は、確かにもう払ってしまって戻って来ないような形になるので、それは本当に申し訳ないと思っている。現実的にも法的整理の中ではそれが戻ってくることにはならないので責任は先ほど申し上げたように何らかの形で取っていきたいと思っている。それが辞任とかということになるのかどうかは、今のところ申し上げるような状況ではないと思っている。副町長についても基本的には今もそのまま任期は務めてほしいと思っている。それは私の考えであり、私の人事については任期が終わった時に選挙という形でどうなるのかということだと思っている。途中で辞任すべきという考え方は理解するが、他にも色々町政としてやりたいこともあり、責任もある。軽く考えているのではなく、ご意見としてそのような思いの方もいらっしゃることは私も認識してはいるが、今のところそれで辞任ということまでは正直考えていない。

●参加者

元々新嵐山の経営状況というのは良かったというものではなかった。その中で、町長が変わられてこの新嵐山改革に着手され、始まったころからコロナがあったと思う。町の財政面からも歳入が減ってきている中で、観光部門にお金を出すのは厳しい部分もあるのでと思うところもあった。そのためにやはり第3セクターなど民間の力を借りて自立させるためにということなどで始まったと思っている。ただ、その部分について町民の中にはその部分の認識や、情報がなかなか伝わりきれていない。どうしてもこの直近のことばかり目が行ってしまっていて、町長がなぜ改革始めたのかということが伝わりきれていない。そこが残念である。今後に向けても大事なポイントではないのかなと思う。財政面の面から嵐山のある状況というのを今一度説明いただけたらと思う。

●町長

観光というものを考えると、どうしても外部の人のためにやっているのではないか、町外の人のためにということになりがちだが、経済循環に繋がって町民にもメリットはあることを訴えていく必要があると思っている。観光ビジョンをこれから作ろうと思っていて、その観光ビジョンの中で観光の目的というのはこういうことで、町としてこういうメリットがあるようにしていきたいというところを伝えていきたい。その中で新橋山がその観光ビジョンの拠点であって、魅力あるところにしていきたいというところを伝えていく。町民の皆さんに今までなんとなく理解されていない中でやってきたという部分もあるので、しっかりと説明をしていくことが必要だと思っている。観光の力を説明していくことは非常に難しいことだが、しっかりと訴えていかなければならない。

歳入の中で観光にどれだけ支出しているのかということ、一応お伝えしているつもりではいるが正直なかなか分かりづらいというところもあるので、これから工夫しながら伝えていくことも大事だと思っている。

●参加者

今後の新嵐山についてはゼロベースで考える、また次の民間の方に託したい言葉があったが、十勝管内のとある道の駅が移転するにあたって、第3セクターでやっていたところを全くの民間に移したというところがある。そこは移転する前の1年ちょっとの間に町民との対話活動を数十回という回数をやって、その中で民間の事業者が立ち上がり、今人気のある道の駅になったという事例を聞いた。東京の方でも大都市のまちづくりの際に、区民の方と対話を多く行ったと聞いている。芽室町の若い世代で、新嵐山のために何かしたいという熱い思いを持って、もうすでに動こうとしている方々もいる。そういった方々の熱量を下げないうちに、ぜひ対話する場を設けていただきたい。もしくはこちら側でもそういったところをしっかりと作り上げていきたい。

●町長

先ほど申し上げた色々な手法を用いてやっていきたいと思う。何回できるかどうかは分からないが、色々な声を集める手法も含めて工夫してやっていきたい。通常の問題とは違って非常に大きなものなので、できるだけ多くの方にご意見をいただくようなことは考えたい。

●参加者

新嵐山は設置条例で町民の福利厚生施設と観光という二つの目標が掲げられているが、新嵐山自体を資源として活用していくなど、稼げる場所にしていくという感じで使い方を拡張していくのはどうか。例えばドローンの実証実験をする場として提供していくとか、新しい形で稼ぐという手段を作ることも可能ではないかと思う。そういった利用方法の拡張や条例の改正というような考える余地は今後あるのか、また、町でより新嵐山を多角的に活用していくビジョンは現時点であるのか。

●町長

多角的に活用していくビジョンは今の時点では特にはないが、設置条例自体の考え方や目的については、見直す必要はあるとは思っている。今言われたように拡張する必要はないのかなど、そういったことも含めて検討したい。ソフト面でも色々やれることはあると思っているので、ご意見をいただきながら取

り込んでいけたらと思う。ドローンをやるかどうかは別として、そういう意味では幅広くご意見を伺っていききたい。

●参加者

先日の議会の説明会にも出席させていただき、債権者の一人なので案内はなかったが債権者集会にも出席させていただいた。総務省の第3セクターについての令和4年に発表された財政的リスクの調査を見たが、新嵐山株式会社は、令和3年度資産が2200万円、負債が6300万円、純資産から正味財産を引いた分が-4,000万円で債務超過法人に指定されている。これにより経営計画を策定し、現在に至ったと思うが、うまくいかなかったのだと思う。そこで質問だが、債権者集会で、町は新嵐山株式会社に100%出資しているにも関わらず、会社には財産が無いということで一般債権者には支払いができないと弁護士が言っていた。責任の所在が曖昧である。会社は、補助金への依存があまりにも高かったのではないか。気になるのは約4000万円の借入金。金融機関からの借入だが、これに対して借入時に町が保証して支払うということをしていないかどうか。

もう一つは意見だが、一番気の毒なのは新嵐山で働いていた従業員だと思う。私のところには新嵐山を失業した人がハローワークで仕事を探しているということでアルバイトできて働いてもらっている。その方からも色々と意見を聞いた。この方は前の施設でリフトを動かしていた人で経験者。スキー場に対するご意見が非常に多いってことも踏まえ、こういう人材を活用し、町の職員として、スキー部門のプロとして養成して雇用していくべきではないか。破綻する前に議会と調整して、このスキー部門を残すことはできなかったのか、残念な気持ちがある。それと働いている人に関して、あと一日倒産日を伸ばしてくれていれば、4月から働いていた人が失業保険をもらえたとのこと。そういう手続きができるのがあと一日だった。それは非常に残念な思い。そういう細かい点も従業員に対して持っていたきたかった。

●町長

金融機関からの借入金で町が保証となっていない

のかということについては、町は保証人になっていないため、保証する義務はない。債権者の方でするので大変申し訳なく思っている。集会の方も手違いがあっただけで案内できなかったということで、その点につきまして本当に心からお詫びを申し上げたい。また従業員のその後についても、私が言う立場ではないが、受け入れに感謝申し上げたい。

借入金は、町が保証人になっていないが、私としてもなんとかこの債務を解消しようと思ひ、町として補正予算を議会に提案し、町で保証できないかということも考えたが、総務省の通達の中で、町が法人である第3セクターの清算のためにお金を入れることは法的に違法性が高いとされているため、私としては違法性があるかもしれない補正予算をあげるわけにはいかず、法的整理の方に向かわせていただいた。

あとはご意見ということだが、従業員の今後については、いきなり次の事業者にスキー場をやっただけわけにはいかないため、できれば今シーズンなんとかという思いもあり、少なくとも来シーズンもその新たな担い手で簡単にいかない可能性があるため、町直営でスキー場だけでも再開できないかと思っているのでそういう意味では人材としてカムバックしていただけて活躍していただけるという可能性もあるかとは思ひ。一つの手法として考えていきたい。

●参加者

スキー場は子どもの教育の意味でも大事な部分などで、将来に向かってぜひ残してもらいたい。観光の面でも経済性の問題もあるが、経済循環という部分でも、もう少し町民に分かるように説明いただいて町民に愛される施設にしていてもらいたい。意見である。

●参加者

繋ぎでも令和6年度から直営も視野に入れてスキー場を再開したいという認識でいいかと思うが一度止めたリフトを再開すること、老衰化したリフトを実際に動かすことは可能なのか。

●町長

おっしゃる通りで、今年度も少しでも整備をして使っていけば、認可を続けることができる可能性があるのですが非常に良いと思っているが、今の認可というのはかなり前の時に取った資格である。これを何とか繋いでいけたらいいが、1回止めて新たに動かそうとすると色々な設備などを今の基準に合わせて整備しなくてはならなくなる。そうすると、費用算定はしていないが、かなりの金額がかかる。極端に言えば架け替えなどもあるという実態。令和5年度も動かさないと努力はさせていただいているが、先ほど申し上げたように非常に厳しい。そうすると、これからかかるお金についても議会に提案してご理解いただかないとできない。加えて、新たな担い手にお任せした時にどういうことをやるかによってもまたさらに投資は出てくる。

●参加者

日曜日の時にも参加させていただいたが、その時に手島町長にこの改革をやってよかったかどうかという質問をさせてもらった。良い部分もあったし良かったと思っているという回答をいただいて、ちょっと気になっていた。今のこの結果を見てしまうと、良かったと思っている町長の気持ちはちょっと残念だなという思いがある。もちろんグリーンシーズンや新しいことをやって人気だったのも分かっているが、急にこうなって解雇になった方もいるし、債権者になってしまった方もいる。その方たちの思いというのを理解した上での良かったということだったのであれば、ちょっと残念だなという気持ち。

後は意見を一つ言わせていただきたいが、これは建設的な意見になってほしいと思うが、私は当事者として、数年前にテナント契約について支配人と何度も交渉をさせていただいた。その契約書を町長はご覧になっているか。その時、新たな契約書を提示されたが、その内容がとても厳しい内容だった。それで現場の支配人と何度も話し合ってもなかなか折り合いがつかなかった。社長を含めてお話ししたいと支配人に何度も伝えたが、それは叶わなかった。先日、社長にその契約書の内容について伺ったところ、当時は少ししか見ていなかったとの回答で、それがすごく残念だった。

もし次の新しい会社の方と交渉する場面が来た場合、100%町の出資企業というのであれば、現場の方だけではなく、町の方も含めて、社長も参加された方がいいと思う。後、その契約書内容を弁護士に見てもらったが、これは大型店舗とテナントが契約するようなあまりにもすごい内容で、これを新嵐山とうちみたいな小さな会社が結ぶような契約だとしたら、かなり厳しいと言っていたので、そういうところも町の方に知ってほしかった。結局は契約に至らなかった。それはうちが契約できないと判断したことなのでいいのですが、その内容は厳しいものだったということは知って欲しかったし、テナントを出たくなかったという思いは汲んでいただきたい。

●町長

契約も大事だが、その前に仕様というものがあって、町としてはこういうことをお願いしたいというものをまとめる。先ほど言った接客や、町民に愛されるというところをしっかりと謳ってやっていきたい。その上での今度は契約ということになるので、そこもしっかり目を通してやっていきたい。

●参加者

施設のことだが、先日のスロウ村のイベントがあった時、水が使えなくなり、貯水場が空になったことでトイレの使用ができなくなった。水量が間に合わなくて二日間あったイベントの二日間ともトイレの使用ができなくなった。水の使用量が多すぎてお風呂の利用もできなくなった。ということで、現状の施設では、そのまま使用するのは不可能で、改善しないとイケないと思う。

あと、ボイラー室は至る所で水漏れが発生する状態で、従業員が試行錯誤して受け皿を置いて、貯まったら毎回水を捨てるという動きをしていたので、大掛かりな改修をしなくては無理だと思っている。リフトを動かすのにも関係しても現状では新規でやるにしても15億円かかると聞いている。それは平成31年の話なので、今計算すると約20億円は架け替えでかかるかもしれない。なので、今の新嵐山の現状だと施設を改修するのであれば億単位は最低でもかかる。それを町の税金を使って修繕するのであれば、またこれも議会の方で否決されるのではないかとと思う。完全に町から離し

て民間の方が入ってやられた方がいいのかなとも思う。税金を使わなければ議会も何も言っていない。好きなように運営もできるからそれでもいいかもしれないが、ただそれをやると町民に対して何もできなくなるという不安もあると思うので、そこはまた別の違う方法で町民と関われる方法をとっていただければいいなと思う。今現状の施設はそういう状況なので、難しいという思いがある。

●町長

施設関係は古いので、配管、配電、電気、そういったものも含めて非常に老朽化しているし、中は複雑な構造もなっているので、改修をするにしてもそこは大変だと思っている。後は、色々なお考えがあるかと思うが、町の一般財源としてどこまで出すかというところが肝になる。総事業費で話したらそれはすごい額になりかねないので、町財政としては一般財源をいかに少なくするか、あるいは民のお力、企業版ふるさと納税やクラウドファンディング、そういったものをお願いしていかに負担を減らすかという努力はした上で、議会の皆様にご理解いただけるかどうかということになってくると思う。それがご理解いただけないのであれば、もう申し訳ないが山としては再開できないということになる。在り方、機能、金額などを弾いた上で皆さんにお話、お伝えできればと思っている。

●参加者

質問ではなく意見という形になるが、今回の新嵐山の動きに関しては、実際に閉業する可能性が強くなってから、実際に閉業するまでの期間があまりにも短すぎたのかなと思う。例えば帯広の藤丸のように、何月で無くなるという告知があれば、色々な動きが町内外から生まれてきた可能性はあったのではと思います、そこが非常に残念だと思う。そういったものがあれば、町の中からまた違う動きが出てきたり、誰かノウハウを持っている人たちのご提言があったりとか、そういうこともひょっとしたらあったのかもしれない。ただ過去の話ばかりしていても仕方がないので、これから町長を始め存続させるという方向で話を進めているということなので、ぜひ頑張っていたいただきたいと思う。

子ども達は今新嵐山で何が起きているのかわからない。新嵐山があることを知らない子どももいる。だけど、彼らが新たに知って利用してくれればいい。今、若い事業者の方々、例えばサイクルツーリズムをやって新嵐山をファットバイクでゲレンデを降りたりだとか、ピーナッツを作っている皆さんがいたりとか、そういった方々が集まる場という中では、新嵐山は非常に貴重な場所だと思っている。それが立ち入ることができないということは、何としても避けてほしいと思う。かちフェスなど、色々な動きが芽室町にはあり、花火大会も復活して素晴らしいことだなと思う。その中で意見とかやはり小さくても成果として可能性が見えているもの、キャンプも単にキャンプ場で何人来たとかこういうサービスをしたとかではなくて、私も実際にさせてもらったが、子供でも運べるようなりアカーを導入してくれていたりだとか、朝日の出とともに一番にキャンプ場に響き渡るのは子供達の声と、それから犬の鳴き声だったりする。そういう面をどんどん打ち出してほしい。こういうような状況になると反省ばかりが前面に出てしまうかもしれない。そこは気持ちを強く持って町民の皆さんは町内外の人たちに広く発信してもらいたい。色々反省も踏まえて再建策をまとめていただければと思う。経営でお金が足りなくなったこと、そういった顧みるところは解明しなきゃいけないと思う。ただ、そういう意見ばかりになると可能性すら消してしまうことになるのではないかとということをお伝えしたい。長くなって申し訳ないが頑張っていたいただければと思う。

●参加者

嵐山改革を掲げて政策を行ってきた町長だが、現時点での自己評価を聞きたい。

●町長

結果として会社もこういう形になってしまったし、相当低い。何点というのは申し上げられないが、反省すべき点は多々ある。

●参加者

新嵐山を残したいということは大事だが、その残し方が重要だと思う。新たな担い手となる事業者は色々なことでお金も必要であり、初期投資も必要だと思う。

それは分かるが、それでやった結果、営業だけで赤字になったらどうするのか。またそこで町は税金を突っ込むのか。そこら辺を十分今後協議していただきたい。それが町長なり副町長の責任の取り方でもあると思う。そういう責任の取り方で、しっかりと町民のためになるように努めていただきたい。

それと話しはずれるが、町長にしろ、副町長にしろ、芽室町にはまだ守るべきものがあると思う。病院である。プラスの決算と言っているが、あれはコロナの影響でプラスになっているだけで、本来であれば厳しいと思う。今後はそうなると思う。高齢化も進んでいるが、その辺も踏まえて、業務にあたっていただきたいと思っている。そこだけ聞いてもらえれば。また年明け、未来ミーティングの際に色々お話を聞かせていただきたいと思っている。

◇町長結びの挨拶要旨

新嵐山スカイパークの再生に向けては、今までの振り返りをしっかり行った上で、最大限努力していきたいと考えている。私の思いとしては、新嵐山を存続していきたいという気持ちに変わりはない。手法や財源、新たな担い手など、整理すべき課題がある。そこをしっかりと整えて、また皆様にご提案やご説明をしていきたいと考えている。また、その際にも色々皆様からご意見をお聞かせいただき、議会、町民と一緒に考えて、なんとか未来の子どもたちのために残せるような財産にしていきたい思い。

今回の未来ミーティングは、色々な議論をさせていただいた。ご批判や厳しい意見もいただきましたが、今後の再生、将来に向けて、町民、利用者、関係者とともに、そして応援もいただきながら前を向いて進んでいきたいと考えている。

21時00分終了

